

7. 妊娠中・授乳中の片頭痛

① 妊娠中の片頭痛

妊娠中(とくに後期)はホルモンが安定するために片頭痛から開放されます。

それでも妊娠中に片頭痛がおこったらどうすべきか？

妊娠中には非薬物療法が好ましいですが、薬物を使用する場合には、妊娠の時期を考慮する必要があります。最終月経初日～27日は無影響期のため、この間に片頭痛治療薬を服用したとしても問題がありません。

妊娠4週～11週末は胎児の器官形成期であり、催奇形性が問題となるため可能な限り薬物の使用は控えます。妊娠後期には胎児毒性が問題となります。

非薬物療法としては、

- 患部を冷やすなど片頭痛の対策をとります。
- 一眠りできれば片頭痛はずっと楽になっているでしょう。
- コーヒー・緑茶は抗片頭痛効果がありますので飲んでみるとよいでしょう。

薬物療法としては、

- NSAIDs は胎児の動脈管収縮・閉鎖などの危険性を高めるため、特に、妊娠後期には使用を控えます。
- 鎮痛薬の中ではアセトアミノフェン製剤は比較的安全とされており、第一選択薬になります。
- NSAIDs では、イブプロフェンの安全性が高いです。

- トリプタン製剤については、妊娠初期の使用で胎児奇形発生率が増加しなかったことが報告されており、添付文書でも「治療上の有益性が危険性を上回る場合にのみ投与」と記載されています。
- エルゴタミン製剤は、子宮収縮作用、胎盤・臍帯における血管収縮作用、母乳中への移行があり、妊娠・授乳中には禁忌です。
- 片頭痛の随伴症状として悪心・嘔吐を認める場合には妊娠中はメクロプラミド(プリンペラン)、授乳中はドンペリドン(ナウゼリン)を選択します。
- 妊娠中には予防薬投与は原則として行いませんが、頭痛日数が多く生活への支障が大きい場合にはプロプラノロールが選択されます。

② 授乳中の片頭痛

- ほとんどの薬剤が「授乳中は避けること」と注意されています。
- アセトアミノフェン製剤が比較的害がないとされ第一選択薬となります。
- トリプタン製剤については添付文書ではスマトリプタンは投与後 12 時間は授乳を避ける。他のトリプタンは授乳を避けると記載されています。
- しかし、母乳中にはほとんどの薬剤が移行しますがその濃度は低いため、米小児科学会ではスマトリプタン(イミグラン)は授乳中に使用可能とされています。また、エレクトリプタン(レルパックス)は母乳への移行が極めて少ないため、国立成育医療研究センターの妊娠と薬情報センター「授乳中に安全に使用できると思われる薬」リストに、スマトリプタン(イミグラン)と共に掲載されています。